

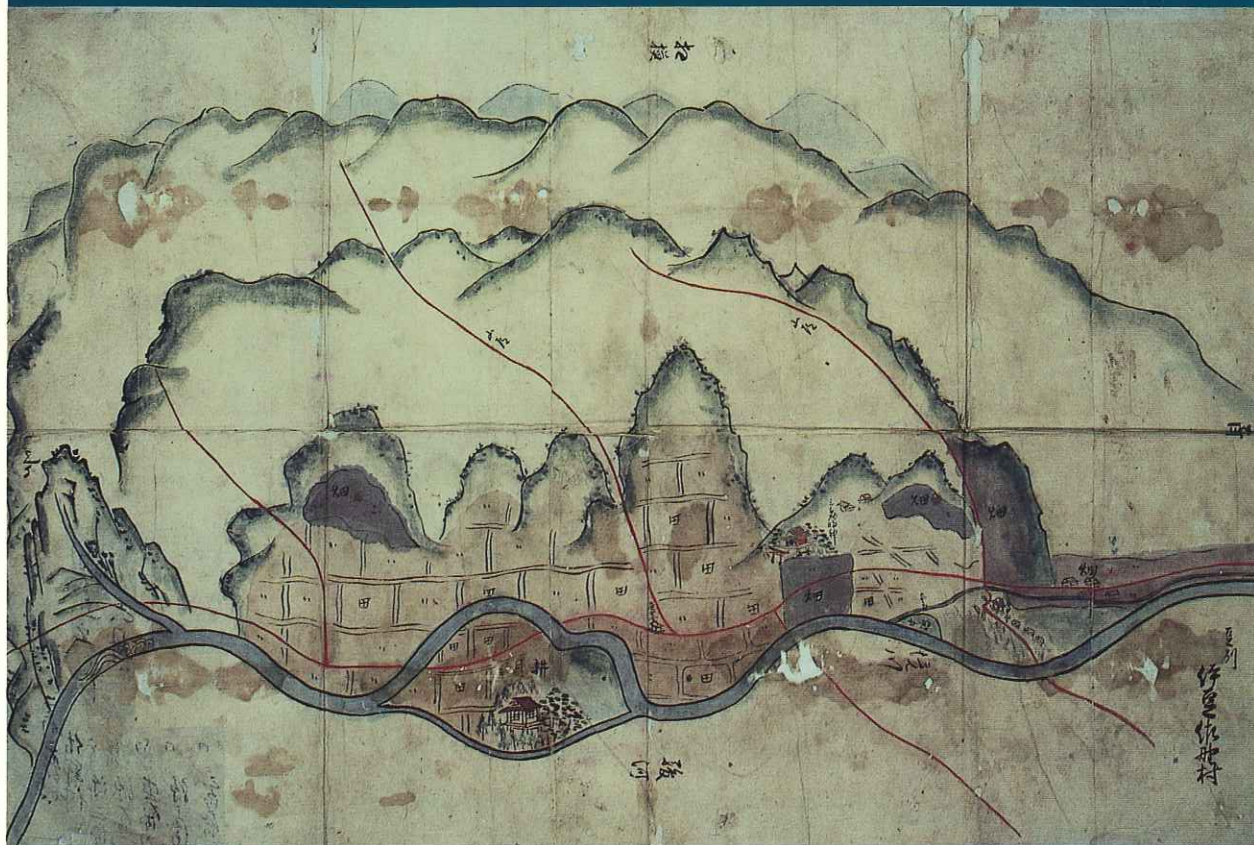
しずおか文化の祭典'90参加

企画展

# 古地 図

—— 浅倉コレクションを中心に ——

平成2年7月29日(日)～9月24日(月)



ずしゅういずさのむらえず  
豆州伊豆佐野村絵図

元禄11年 (解説及び航空写真は別掲)

私たちは祖父母や地域の古老たちから昔のふるさとのようすをあれこれ聞くことができますが、そうした昔話の中から浮かんでくるふるさとのようすは、いかに話がおもしろく、興味を引かれる内容であっても、それは想像の域を出ない景色に過ぎません。そのような時、昔を映し出してくれる一枚の古地図が手元にあったなら、想像はにわかに生き生きとした臨場感を帯びてくるに違いありません。古地図を見る楽しみの一つは、今では失われ、忘れ去られようとしている過去のふるさとを、生き生きと再現させてくれるところにあります。

本企画では、古地図を見る楽しみを発見し、自ら古地図の研究と収集に身を投じた浅倉清氏(故人・榛原町)の「古地図コレクション」を中心に、地域の村絵図なども加えて展示し、郷土史を理解し、ふるさとを愛する人々の認識を深める一助といたく、開催することとしました。

# 浅倉コレクション



## いずしちとうぜんず 伊豆七島全図(部分)

木版 天保13年(1842)

伊豆・相模・房総の沿岸部と伊豆諸島を描いた海図である。

各沿岸・島の間の方位と里程、干潟等が書き込まれ、航海に必要な情報が盛り込まれている。

地図下部には、伊豆七島各島の周囲里数・戸数・人口・村数・田畑・物産・神社・仏閣・山川が記載されている。又、小笠原諸島の歴史的経緯についても詳しい。

するがのくにぜんず

## 駿河国全図

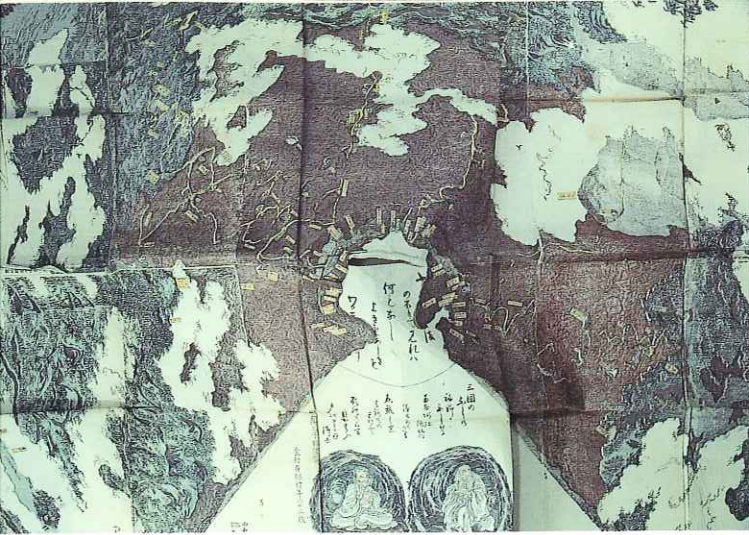
松島堂

木版 文政10年(1827)

駿府(静岡)を中心に東は御殿場・沼津から西は大井川までの駿河国が描かれている。

国内の全村名を始め、主要道・河川・山等が記入され、富士登山道も描き込まれ、詳細な絵図となっている。





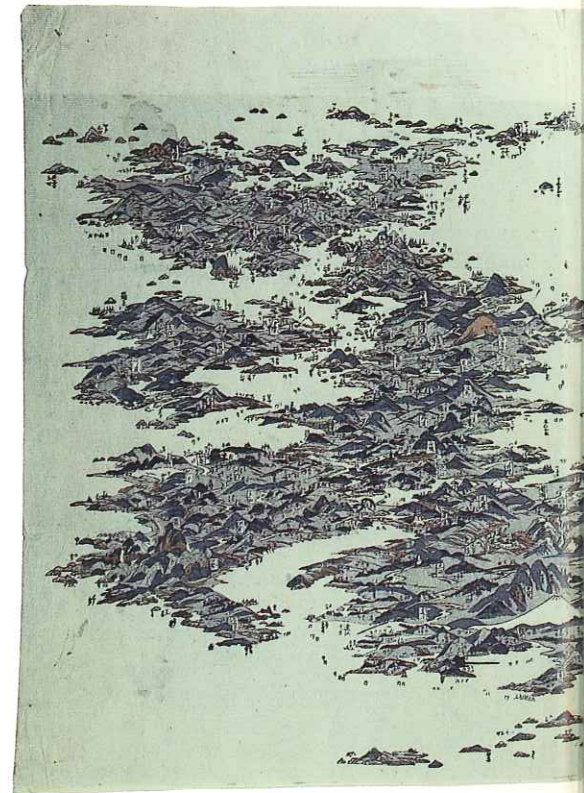
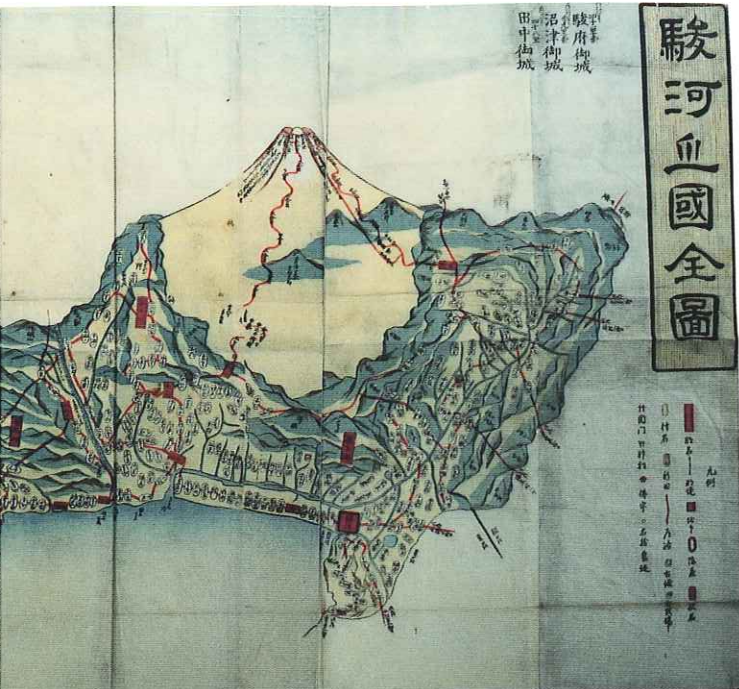
ふじのたけ  
富士之嶽(部分)

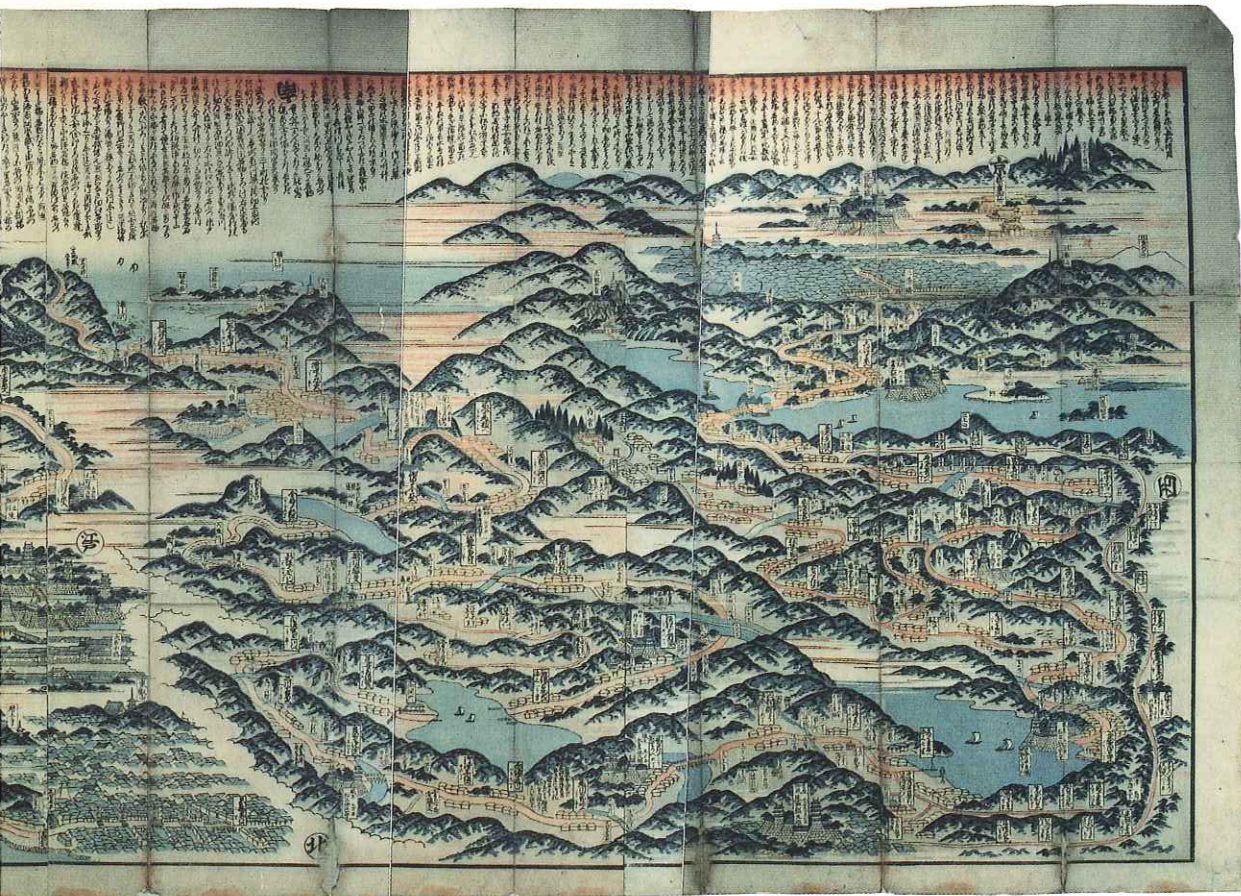
五雲亭 貞秀 作  
木板 嘉永元年(1848)

江戸時代、富士山信仰が高まるにつれ、富士登山を行なう富士講が盛んになった。

これはその案内図ともいえる絵図で、富士山を立体的にみせるための苦心のあとが見られる。

裾野には名所・旧蹟が紹介され、富士について詠まれた代表的な和歌・物語も掲載されている。登山道にも詳細な案内が記入され、風穴を紹介するために別の紙を添付し、地上の樹林と、地下の風穴の両方を見せているのもおもしろい。





とうかいどうちようかんず  
**東海道鳥瞰図**

くわがた  
 歙形紹意図

木板 文化年間(1800頃)

一画面に江戸から京までの東海道筋の宿駅・名所・旧蹟が描き込まれている。

画面左下の江戸城下は広い面積を占め、日本橋よりくねくねと道筋をたどると、最後に左上、京の街並に到達する。

江戸時代後期には、東海道の往来も激しくなり、道中記や細見もの、浮世絵等と共にこうした絵図も多く出版された。



だいにほんこくちようかんず  
**大日本国鳥瞰図**

くわがたけいせい  
 歙形蕙斎図

木板 江戸時代末期

房総沖の方向より日本列島を見下ろすようにして描かれたもの。国名や主要都市が記載されている他、多くの山々が描かれ立体的な図となっている。特に著名な山は白や赤で表現されている。

海に数多くの帆船が見られるのは、海運や漁業の盛況を物語るものがある。

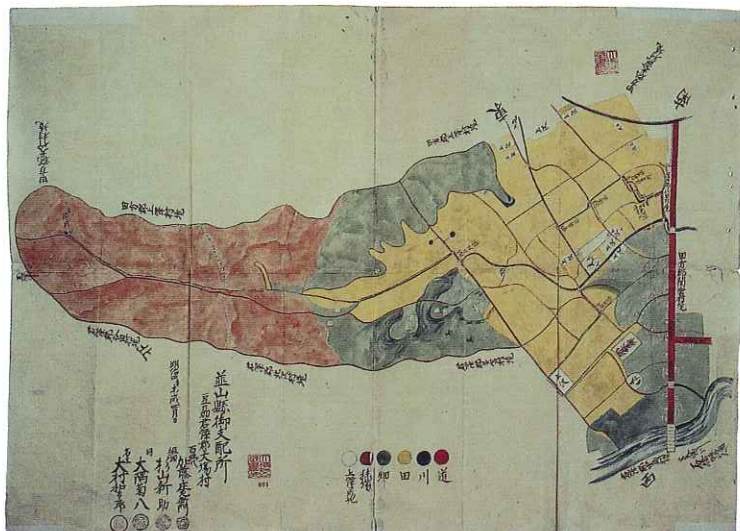
# 村 絵 図

江戸時代、村は、最小かつ基本的な行政上の地域だった。幕府や支配領主などの為政者は、支配地域の村々を的確に把握するために、村毎に命じて、村境・田畑・屋敷地・森林・河川・用水・寺社などを描き込んであって村の概況が判る平面図を作成させ、提出を求めた。これが近世村絵図である。

村絵図は、その村独自の必要から作成される場合は少なく、たいてい幕府や支配領主の要請に基づいて作られた。だから村況を平面的に眺望できる好資料ではあるが必ずしも村況全

体を満遍なく描いているとは限らないので、村の様子をさらに詳しく正確に把握するためには文書資料を対照させてみる必要がある。

しかし、こうした村絵図から知り得る事柄は多い。特に近世の地理的村況は、明治以降の道路、河川改修、耕地整理および集落発達等によっていちじるしく変貌しているの、こうした地域の変貌の歴史を知る為には村絵図は欠かせない重要な資料となっている。



▲現在の大場附近(三島市大場)

## ずしゅうきみさわぐんだいばむらえず 豆州君澤郡大場村絵図

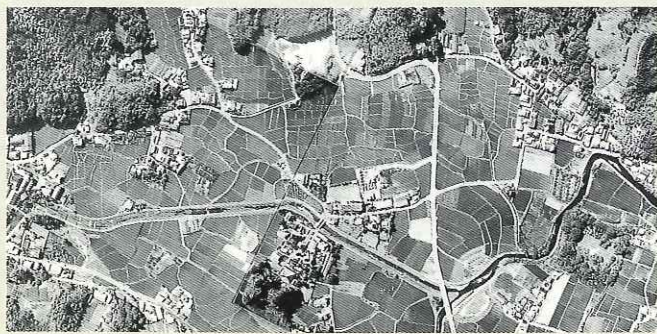
明治4年(1871)

絵図には「菰山県御支配所」とあり、明治新政府になってから描かれたもので珍しい。絵図は、道(赤)・川(青)・田(黄)・畑(緑)・林場(茶)・上澤飛地(白)と、色分けられている。

大場耕地中央を流れる宮川、それから合、分流する用水には堰の名称が書き込まれている。絵図は用水関係文書に付随したもののようである。赤く太く描かれた道は「熱海往還」と、そこから分かれる「下田往還」である。(大場区所蔵)

## ●表紙写真 「豆州伊豆佐野村絵図」

元禄11年(1698)



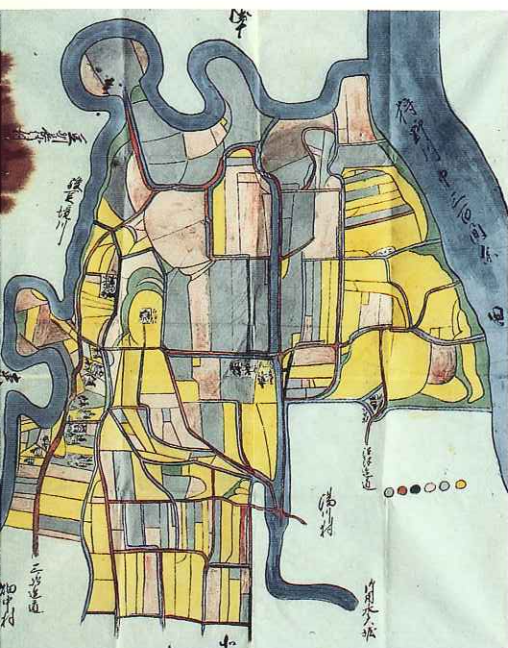
▲現在の佐野(三島市佐野)

「元禄11年寅年6月、豆州君澤郡佐野村、名主弥三郎、組頭源右衛門、同直右衛門、同孫兵衛、同三郎左衛門」と、絵図の裏面に書き込みがある。たいへん古く、貴重な絵図面である。

絵図の下部を横に流れる川(青)は境川、上部の山並みは箱根で、その中間に佐野の耕地の田や畑が描かれている。

川に挟まれて描かれている建築物は耕月寺でその外にみるめ大明神(見目神社)や庚申堂が見える。

(勝俣巖氏所蔵)



ずん しゅうずん どう ぐん  
**駿州駿東郡**  
**的場村絵図**  
 (年号不明)



▲現在の的場附近(駿東郡清水町の場)

三島市と境川を挟んで接する現在の清水町の場の村絵図である。  
 絵図左端をくねくねと蛇行しながら流れる川が境川。「駿豆境川」と読める。むかしは、この細い流れが伊豆と駿河を分けていたのである。的場の集落は境川に沿って在ったことが判る。  
 境川の合流する右端の太い流れは狩野川。合流地点で、北から南への流れが、狩野川の南から北への流れに吸収される。  
 的場耕地中央を流れる川は玉川用水。(費川文書、郷土館蔵)

■ **展示・浅倉コレクション目録**

(この他、三島及び近隣の村絵図等を展示)

No.	作 品 名	作 者 名	製 作 年	寸 法
1	海道図(行基図)	洞院実熙又公賢	慶応年間	33.8×23.2
2	大鏡背面日本図	木瀬浄阿弥	慶長16年以前(1611)	径98
3	大日本絵図		江戸時代初期	60.5×108.5
4	日本山海図道大全	石川流宣	元禄16年版(1703)	99.7×170.0
5	改正日本輿地路程全図	長久保赤水	安永8年(1779)	82.0×132.5
6	官板実測日本地図	伊能忠敬	慶応元年(1865)	227.0×156.0
7	大日本沿海略図	勝義邦(海舟)	慶応3年(1867)	60.0×72.0
8	大日本国鳥瞰図	鋏形蕙斎	江戸時代末期	40.7×56.7
9	大日本名所一覽	2代安藤広重	江戸時代末期	35.8×24.2
10	江戸道路地図	遠近道印	元禄8年(1695)	92.8×103.0
11	駿府国全図	松島堂	文政10年(1827)	51.3×90.4
12	東海道鳥瞰図	鋏形紹意	文化年間	69.4×139.5
13	伊豆七島全図	長山貫	天保13年(1842)	76.4×107.0
14	富士見十三州輿地全図	秋山永年	天保14年(1843)	155.4×175.2
15	分間江戸大絵図	金丸影直	天保15年(1844)	167.0×195.3
16	江戸切絵図	尾張屋清七板	嘉永元年他(1848)	49.5×53.7
17	富士之嶽	五雲亭貞秀	嘉永元年(1848)	92.0×94.0
18	大阪漢口江異船舶来之図	(号外)	嘉永7年(1854)	35.5×48.0
19	江戸南海岸御固絵図面		嘉永年間	145.0×75.0
20	伊豆七島之図		江戸時代末期	27.5×119.0
21	相模国輿地全図	高柴三雄	江戸時代末期	37.3×51.3
22	海陸道中絵図自大阪至下関	橋本玉蘭	江戸時代末期	18.4×12.0
23	西国巡礼道中絵図		江戸時代末期	58.5×64.3
24	東海道分間之図 上下		江戸時代末期	13.8×20.5
25	駿河国畧図	木邑氏藏板	江戸時代末期	47.7×71.0
26	道中細見定宿帳	大阪藤屋菊二郎板	江戸時代末期	7.0×15.8
27	京都一覽図画	五雲亭貞秀	文久年間	36.6×24.3
28	駿河国府中之全図	五雲亭貞秀	文久3年(1863)頃	36.6×24.1
29	江戸鳥瞰図	一豊斎国盛	文久年間	37.0×51.8
30	京都指掌図	竹原好兵衛板	文久2年(1862)	51.8×71.0
31	駿遠参全図	井上氏藏板	幕末頃	71.0×145.0
32	駿府近郊図	知春園梅蹊	慶応4年(1868)	70.7×71.0
33	実測東京全図	内務省地理局	明治17年(1884)	99.0×85.6
34	鉄道線路入日本新選地図	井上勝五郎	明治26年(1893)	36.4×143.0
35	日本全国鉄道旅行案内	高木賢栄	明治33年(1900)	81.5×145.0
36	鉄道旅行地図	雄文館	大正13年(1924)	19.2×153.0